

令和 7 年 1 月 7 日
校・園長氏名 堀之内 真理子



1 学校経営計画に基づく主な取組と評価

(1) 教育活動への取組と評価 (◎ほぼ目標達成 ○概ね目標達成 ▲課題が残った)

教育活動への取組			評価
確かな学力の育成	基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着	・児童一人一人が「できた」「わかった」と実感できるようにするとともに、自ら問いを見だし、主体的に学べるよう、研究授業（年3回以上）や授業力向上ペアリングシステム、OJT研修等を実施し、授業力向上のための取組を全教職員で行う。	◎基礎的・基本的な知識・技能の定着及び主体的に学ぶ児童の育成のため、校内研究授業を年に6回、校内研修会2回、互いに授業を見合う「授業力向上ペアリングシステム」を全教員2回以上、OJT研修を6回実施した。また、理科・外国語活動・情報教育等の巡回指導を8回活用した。ペアリングシステムを活用しつつ、教職員が自主的に研修をしている姿が多く見られた。
	一人一台端末（きたコン）を活用した授業	・一人一台端末（きたコン）を活用した授業の質を高め、個別最適な学び及び協働的な学びを実現させる。	○6月、11月に実施した児童アンケートより、「きたコン」使用率が86%から93%に増加した。▲「きたコン」の約束を守って学習に生かしているの項目の保護者の肯定的評価は、86.2%であった。（児童94.4%）
	授業公開等、授業力の向上に向けた取組み	・週ごとの指導計画を充実させる。全教員が、授業公開等を年3回以上行い、指導・助言を通して授業力を高めていく。	○巡回指導、指導主事訪問等の他、校内で見合う仕組みを整えた。また、年6回の学校公開及び運動会、展覧会の学校行事の保護者参観率は約68%となった。積極的にHPやメール等で周知し、「開かれた学校」の基盤を作った。
	学力調査の分析・活用	・区の学力調査結果の分析を（7月中旬）に行い、授業改善推進プランを（8月末までに）策定し、改善案を実施する。	○北区基礎・基本調査より、ほとんどの項目で全国値を上回った。（結果が下回った学年・教科）3年生算数が0.7pt、5年生理科1.4pt、6年生理科0.6ptについては、授業改善プランを作成し、取り組んでいる。○東京ベーシックドリルを活用し、学年・クラスの実態を把握し、個別指導に生かした。
	指導員・補習教室の活用	・つまづき解消に向けて、算数少人数指導担当、学力PU講師、学級経営支援員、理科支援員、交流講師等を活用し一人一人の学力に応じたきめ細かい指導を行う。 ・放課後の補習教室で、「学力フォローアップ教室」（3年生以上）及び「スタートアップ教室」（2年生）を実施する。	◎3年生以上対象の学力フォローアップ教室（年33回）、2年生対象のスタートアップ教室（25回）を実施した。年間を通し、学生も含めた人材活用に努め、個別指導が必要な児童へのきめ細かい指導を行った。 ◎学力PU講師や学級経営支援員、学生ボランティアを活用して、個別最適な学びの実現に向け、計画的に実施した。
豊かな心の醸成	基本的な生活習慣の定着	・基本的な生活習慣（あいさつ・あつまり・あとしまつ）のさらなる定着を図る。	○3つの「あ」の定着のため、本年度はあいさつを重点目標とした。あいさつ運動を年2回実施し、各委員会活動の常時活動として取り組んだ。粘り強く取り組んだことで、すすんで挨拶をする児童が多くなった。
	「いじめ解決100%」の取組	・道徳教育、人権教育を重視し、全教育活動を通して思いやりの心、社会性や規範意識を育てる。『いじめ解決100%』に向け、指導の充実を図る。年3回のふれあい月間やWEBQ調査を活用し、いじめの未然防止、早期発見に取り組む。	◎道徳授業地区公開講座や人権教室を行った。人権教室では北区総務部多様性社会推進課と人権擁護委員と連携し、人権教室を各学年行った。 ○「学校いじめ防止基本方針」をHPに掲載した。「いじめ対策の取り組み状況について」の学校シートから、教員のいじめの定義の理解度及び対策の重要性は、6月の調査より向上し、「学校いじめ防止基本方針」の保護者へ説明できるという項目については、100%となった。
	豊かな感性の涵養	・芸術・文化に関する教育活動の充実を図り、感動や喜びを味わう機会を増やし、豊かな感性を涵養する。	◎年間を通して音楽活動の充実を図るとともに、12月に展覧会を開催し、多くの保護者、地域の方から感動や感謝の言葉をいただいた。児童自らが地域の幼稚園や保育園に広報活動を行ったり、展覧会の学芸員を行ったりした。
	特別支援教育の充実	・特別支援教育を充実させ、特別な支援を要する児童への校内体制の整備と関係機関との連携を深める。	○毎月の特支校内委員会を活用し、配慮を要する児童の共有化を図り、学校全体で支援できる体制作りを行った。また、家庭と子供の支援員や学生ボランティアによる支援を継続的に行うことができた。
健やかな体の育成	体力向上の推進運動の習慣化	・体育授業及び体育的活動（運動会、持久走・なわとび、水泳指導等）を充実させ、体力向上を推進する。 ・体育朝会の実施と併せて、休み時間の校庭遊びを励行し、運動に親しむ態度と運動習慣を醸成する。	◎休み時間の外遊びの励行や運動委員会による体力向上週間の取組を計画的に行い、外遊びをする児童が増えた。また、校庭遊具の工夫を行ったことにより、すすんで体を鍛える児童も増加した。 ○令和6年度体力テストの結果から、偏差値が下回っている項目は少ない。年間を通し体力向上が図られた。（▲投力は、取組を工夫したが課題がある）
	健康な生活習慣の形成	・朝ご飯の励行、食事マナー等、食育の推進とともに保健指導の充実を図り、健康な生活習慣を形成する。	○食育月間や週間を活用し、食事マナーの向上や給食の様子をきたコンを使って配信した。また、栄養士が毎日児童の食事の様子を観察し、献立を工夫したり、献立を学びポケットに掲載したりし、健康な食生活の大切さを伝えた。
特色ある教育活動の推進	金管バンドクラブ及び環境ボランティアの取組	・金管バンドクラブや環境ボランティア活動等の「特色ある教育活動」の充実により、地域とのつながりを深め、地域を愛する気持ちを育み、社会性を育てる。	◎滝野川西ふれあい館文化祭、新春滝野川西音楽祭の出演等金管バンドクラブの活動を積極的に行い、地域交流を深められた。 ◎北区生活環境部環境課自然環境緑係との連携による美化ボランティア活動や自治会と警察との清掃活動を継続的にを行い、地域の美化活動に貢献した。その活動が認められ、環境美化教育優良校及び協会会長賞を受賞した。
	読書活動の充実	・朝読書や読み聞かせの推進を図り、読書習慣を身に付け、豊かな情操を育む。	◎週1回の朝読書の時間を確保したり、保護者や北区読み聞かせの会、絵本作家、学校図書館指導員等による読み聞かせを継続的に行った。

	保幼小中連携の取組	・隣接保育園や小学校、滝野川紅葉中学校との交流・連携を図り、保幼小中一貫教育の推進を図る。	◎6つの保育園・幼稚園との交流を全学年で行った。フランス学園や王子特別支援学校とも交流をした。交流活動は、職業体験、絵画作品交流、学校行事での交流、保護者会の参加等多岐に渡った。SFを対象に授業公開を行った。
働き方改革の推進	業務の効率化委効 率化・会議等の精選	・校務は優先順位の下、効率的・計画的に取り組む。育児・介護等を含め、互いに補充し合うことのできる風通しのよい、働きやすい職場環境を整える。	○職員会議を減らすとともに、職員連絡会とした。主幹教諭や各種主任を中心に企画委員会にて焦点的に議論・改善し、校務システムを活用して周知するようにしたこと、会議の時間を削減した。 ○週に1回程度の定時退勤日、長期休業中の定時退勤ウィークを設定し、業務の効率化を図るとともにライフワークバランスの推進を図った。

(2) 重点目標への取組と評価

重点目標への取組			評価
確かな学力の育成	教師の授業力向上	・週ごとの指導計画の充実、研究授業、OJT 研修、組織的な授業観察等を通し、互いに高め合う教員を育成するとともに、児童の学ぶ意欲を育てるための授業改善を図る。	◎「分かりやすく、意欲をもって学習に取り組めるように授業改善を行う」の項目の保護者の肯定的評価は、約90%、学校評議員は、100%、児童の肯定的評価は、95.6%であった。 更なる評価の向上をめざし、1単位時間の学習のねらいを明確にし、児童が「できた、わかった」と実感できる授業を行う。
	基礎・基本の定着	・朝学習を計画的に進め、「読み・書き・計算」を15分間位置付け、基礎学力の定着を図る。 ・学年により教科の課題に違いがあるため、東京ベシーックドリル等を活用し、教科・領域の改善を図る。	○「学習内容を理解できるようにあらかじめ取り組んでいる」の項目の肯定的評価は、児童・保護者・学校評議員ともに90%を超えた。週3日の朝学習「読み・書き・計算」を全学年で実施し、課題となる内容の学習を行い、学力の定着を図るとともに、東京ベシーックドリル診断シートを年に3回行い、学習の定着度を、常に把握しながら、課題の重点化を図っていく。
豊かな心や社会性の醸成	基本的な生活習慣の定着・及び豊かな心の醸成	・基本的な生活習慣（あいさつ・あつまり・あとしまつ）の中の「あいさつ」の更なる定着を図る。 ・「あつまり・あとしまつ」についても改善されてきている。次年度は、「あつまり」の重点化を図り、集団行動におけるルールの遵守の推進を図る。	◎「学校は、挨拶や言葉遣い等、基本的な生活習慣が身に付くように取り組んでいる」の項目の保護者の肯定的評価は、93.5%であった。児童会活動を中心にあいさつ運動を継続し、あいさつの習慣化を図る。子どもたちが、「楽しく学校に通っている」の肯定的評価は、児童・保護者、学校評議員の全て90%を超えた。
健やかな体の育成	体力テスト結果の活用 健康教育実践	・体育授業の系統的な指導を図り、計画的・意図的な体力向上を図る。 ・食育活動の推進のため、外部人材の活用や教科の横断的な指導を図り、家庭と連携した食育活動を行う。	◎体力向上や保健指導・食育の充実に関する項目の保護者の肯定的評価は93.5%であった。体力テストでの課題である「投力」に重点化を図り、体育や体育的活動を継続的に指導していく。 ・食育活動のさらなる推進のため、各学年の指導計画に位置付ける。
特色ある教育活動・その他	地域とともにある学校	・金管バンドクラブや環境ボランティア活動等の「特色ある教育活動」の充実のため、地域とのつながりを深め、地域を愛する気持ちを育む。学校・家庭・地域が三位一体となり、社会性や豊かな心を育てる。	◎特色ある教育活動の保護者の肯定的評価は、92.2%で、地域連携に関する項目の保護者の肯定的評価は87.8%であった。学校評議員の肯定的評価は双方100%であった。以上より、PTAや保護者、地域との連携・協働を推進し、広報活動の充実にも努める。
働き方改革の推進	業務の適切かつ遅滞ない遂行	・業務に見通しを持たせ、円滑な推進を図るとともに、教職員の適材・適所の配置を行い、やりがいをもてるようにし、働き方改革を推進する。	○定時退勤日や定時退勤ウィークの計画的な実施を継続し、働きやすい職場環境を整える。 ・会議の効率化を図るとともに、校務分掌の隔たりを改善する。

2 次年度以降の課題と対応策

次年度以降の課題			対応策
確かな学力の育成	教師の授業力向上	・各教科で身に付けさせる資質・能力の明確化。「できた、分かった」と児童が実感できる授業改善に努め、児童の学習意欲を高める。	・研究授業や互いの授業を見合う「ペアリングシステム」等を活用し、各教科で身に付けさせたい資質・能力を明確化・共有化した授業実践を行い、組織的に改善を図る。理科・外国語活動・情報教育等の巡回指導を更に活用する。
	基礎・基本の定着	・基礎学力の補充・定着を図ること、考えをきちんと書いて伝えられる児童の育成が課題。 ・算数や理科のつまづき解消が図られていないこと。	・授業や学力フォローアップ教室、スタートアップ教室等で基礎学力の補充・定着を図る。 ・外部人材を活用し、算数や理科の授業改善を図り、学びを積み上げていく。
豊かな心や社会性の醸成	基本的な生活習慣の定着及び豊かな心の醸成	・「3つのあ」（あいさつ・あつまり・あとしまつ）及び言葉遣いの指導の徹底を図ること。 きまりやルールを守って生活を送り、自他を認め合う心を育むこと。	・児童の話をしっかりと聞き、安心・安全な学校作りを行い、互いに認め合い、自己肯定感を高める。 ・いじめアンケートやWEBQU等を活用し、いじめの未然防止、早期発見、早期対応を徹底する。
健やかな体の育成	体力テスト結果の活用健康教育実践	・体力テストの結果で各学年の平均値を下回っている項目について課題を解消すること。 ・保健及び食育指導の充実・周知をすること。	・学年毎の課題を解消する取組を計画的に体育や体育的活動で行う。併せて運動の機会を意図的に確保する。 ・教科横断的に健康・食育指導を行い、実践を周知し、関心を高めていく。
特色ある教育活動・その他	地域とともにある学校	・地域行事等への参加を促し、地域への愛着や感謝の気持ちを継続的に伸ばしていくこと。 ・SDGsの視点で一貫教育の推進を図ること。	・保護者・地域と連携・協働し、教育活動を推進する。 ・金管バンドクラブの地域等における更なる活動の充実を図る。 ・地域人材を生かした教育活動を推進し、地域の一員としての自覚を育てる。
働き方改革の推進	業務の適切かつ遅滞ない遂行	・各教員の業務量の偏りの改善を図ること。 ・適材・適所の校務分掌の配置の見直しと改善を図り、裁量権をもたせ、やりがいに繋げる。	・情報共有の電子化、可視化を進め、会議を効率化する。各教員の適性を生かし、校務分掌の見直し、配置を行う。 ・組織的な対応と迅速な対応の日常化を図る。